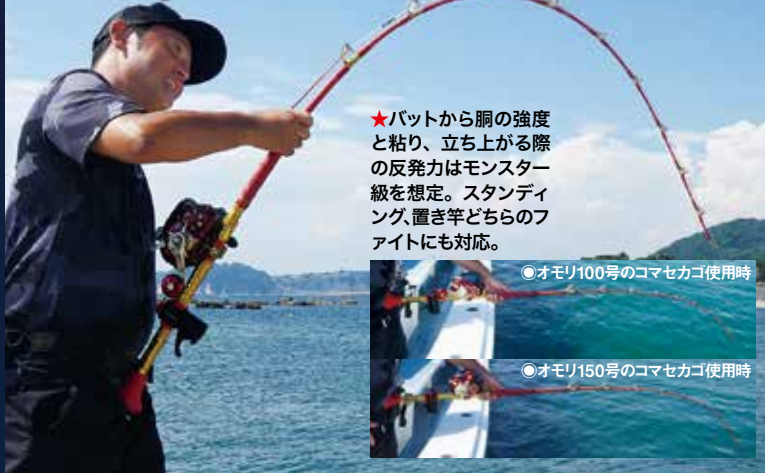


キングチェイサーキハダ 177

Ahsuras Kingchaser KIHADA 177



★バットから胴の強度と粘り、立ち上がる際の反発力はモンスター級を想定。スタンディング、置き竿どちらのフアイトにも対応。

●オモリ100号のコマセカゴ使用時



●オモリ150号のコマセカゴ使用時

キングチェイサーキハダ 157

Ahsuras Kingchaser KIHADA 157



★バットから胴の強さは177同様。短い支点が近くなるためコントロール性が高いアグレッシブなスタンディングフアイト仕様。

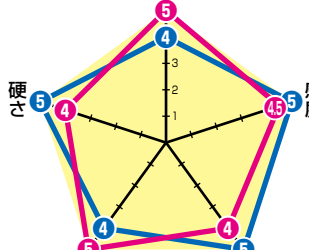
●オモリ100号のコマセカゴ使用時



●オモリ150号のコマセカゴ使用時

177と157の特徴を比較

リフトパワー



仕掛けの安定性 軽快さ

●=キングチェイサーキハダ 177
●=キングチェイサーキハダ 157

| モデル | 全長 (m) | 適合ハリス (号) | オモリ負荷 (m) | メーカー希望小売価格 (税別・本体円) |
|-----|--------|-----------|-----------|---------------------|
| 157 | 1.57 | 6~30 | 80~150 | 165,000~ |
| 177 | 1.77 | 6~30 | 80~150 | 165,000~ |

竿の骨格といえるフランクスの中心には、強度・粘り・感度に優れた同社オリジナル特殊素材を使い、その特殊素材に巻き付ける筋肉と呼べるシートにはカー

修理対応など長い付き合いが可能な竿であることに鑑みれば、破格の価格とさえいえるだろう。

初めてのキハダ専用竿に、使うほど、いつまでも買ってよかったと思える竿を。その願いを込めた実戦的な入門用ハンドメイドキハダロッド、それがキングチェイサーキハダである。

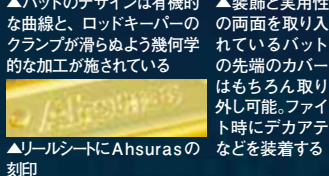


▲カラーリングや巻きなどはオーダーできる

▲グリップ、リングロックともに質感が高く握り心地と締めりがよい



▲グリップの意匠はすべて職人による。素材もすべて日本製にこだわっている



▲バットのデザインは有機的な曲線と、ロッドキーパーのクランプが滑らぬよう幾何学的な加工が施されている

▲装飾と実用性の両面を取り入れているバットの先端のカバーはもちろん取り外し可能。フアイト時にデカアテなどを装着する

▲リールシートにAhsurasの刻印

入門者こそ手にしてほしい
メイドイン・ジャパンの
キハダ専用竿

キハダのコマセ釣りに的を絞って開発されたアシュラス・キングチェイサーキハダは、これらコマセキハダに求められる要素を徹底的に突き詰め、実釣でテストし、仕上げています。

ホンとグラスを採用、ネジれず、最もパワーを発揮する角度で交差させつつ、何層にも巻き付けている。

そのパワー・反発力は、初めて使う人でも竿を立てているだけで曲がった竿が自動的に戻る、つまり竿が仕事をしてくれると実感できるほどだ。

その基本性能の上に、コマセキハダに求められる竿先の感度やクッション性といった、実釣を繰り返すことでのみ与えることができるチューニングを施し、キングチェイサーキハダは完成した。

さらに特筆すべきはブランクス、ガイド、スレッド、塗装、グリップ、バットにいたるまで、すべて日本製が使われ、デザインや仕上げ、意匠はすべて日本の工場にて職人の手により制作されていること。

ハンドメイドロッドとして、また、修理対応など長い付き合いが可能な竿であることに鑑みれば、破格の価格とさえいえるだろう。

キハダを獲る！ アシュラスのキハダ仕掛け



キハダ針 V2
◀ゲイブ (フトコロ) を狭く、ハリ先をやや内側に向けているため飲み切れを防ぐ。手持ち竿で合わせて掛ける仕様。ハリ先の鋭さ、強度、貫通力は「キハダ針」同様。16、18号



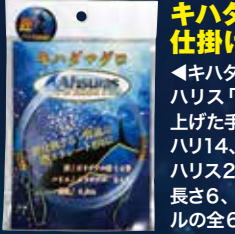
▲左がキハダ針 V2-16号。右はキハダ針 16号



キハダ針
◀ハリ先の鋭さ、貫通力の高さが特長の超ストレート形状。平打ちにより強度が高い。50キロ級を多数キャッチしている実績の高いハリ。14、16、18号



▲ハリ先の鋭さはオキアミを指した瞬間に実感できるほど



キハダマグロ仕掛け
◀キハダ針を信頼のハリス「匠」で組み上げた手作り仕掛け。ハリ14、16、18号、ハリス24、27号、長さ6、8メートルの全6種

匠フロロカーボン
▼高強度、高感度のフロロカーボンハリス。魚から見切られにくい低反射ブルーカラー採用。キハダには20、24、27号がおすすめ



▲8月3日、開幕直後の相模湾へ。この日はアタリなく終わった

Ahsuras Tester



川島 厚司
Atsushi Kawashima
(Ahsuras テスター)

●関東沿岸、銭洲、伊豆諸島などをメインフィールドに泳がせ釣り、コマセ釣りのキハダなど大物釣りへ釣行。アシュラス・キングチェイサーの開発・テストを行う。



本田 雅秀
Masahide Honda
(Ahsuras テスター)

●コマセダイの名手。様々な手を駆使して大ダイを獲るテクニシャンでスルメイカも楽しむ。コマセダイで培った知見を生かしモンスターキハダに挑む。



堀池 虹子
Nanako Horike
(Ahsuras 釣りカール)

●小学生のころから船釣りに親しみキス、アマダイ、マダイ、タチウオなどを楽しむ。兄は清水港山丸の堀池蘭広船長。同船で仲乗りもする。

モンスター級 キハダを獲る！

その決め手は竿にあり

アシュラス・キングチェイサーキハダ157&177

●今年も釣れ始まった相模湾のコマセ釣りのキハダ。予想されるピークは9月中旬以降、昨年はアタれば50キロ、最大70キロに迫るモンスターたちが釣り人の竿を絞り込んだ。この夢のような大物釣りは、だれでもエントリーでき、手にするチャンスがある。ただし、道具は大切。リールはもろろんだが、実は「竿」が大きなウェイトを占めているのだ。

Ahsuras KING OF FISHING KGM

▲竿を持ってアタリに備える。キハダのコマセ釣りは感度も重要だ
◀前アタリと呼べる変化を感じ、アタリに備える
▶竿にはパワーのほかバランスと扱いやすさ、持ち性能も必要

二ワトリが先か、卵が先かではないが、竿の感度、コマセの振りやすさ、そしてコマセカゴを落ち着かせるしなやかさを持つていなければ、どんなに高性能なリールを使っても、キハダのアタリをとらえることは難しい。ご存じの方も多いと思うが、キハダのコマセ釣りではアタリを逃さず、合わせを入れてハリ飲み込まれるハリス切れを防止することが勝負獲得の条件とさえいえる。

また、それ以前に、コマセを的確に振り出し、コマセカゴを安定させるしなやかさが竿になければ、キハダは仕掛けから遠ざかる。

そして掛けたからはキハダとのフアイトが待っている。たっぷり走らせたら一気に寄せるのだが、その重量と抵抗たるや50キロを超えると想像を絶するレベル。それでも休むことなくモンスターキハダをリフトアップし、道糸を巻き取らなければ主導権はもろろん、キハダをサメに奪われる。

この場面でも竿が勝負を左右する。竿を立てて曲げた竿が戻るうとする、その反発力で休むことなくキハダを寄せるのだ。

最高レベルのパワーと同時に、穂先の感度と、手持ち時に疲れないバランス。この一見相反する要素が高次元で備わっていることが、コマセキハダ竿には求められる。